

伝 統

根来から、全国に広まつた技術を
今に伝えます。



根来寺根来塗

木製の器の上塗りには
朱、下塗りには黒が施さ
れており、この朱色は、
使い続けられると、上塗
りの一部がすり減り、下
地の中から黒漆が現れ、
さらに趣のある色合いへ
と変貌します。

400年以上前の鎌倉時
代、新義真言宗の総本山
である一乗山大伝法院根
来寺内とその近辺で製作
されていたことから「根
来塗」と呼ばれるようになりました。

木製の器の上塗りには

朱、下塗りには黒が施さ
れており、この朱色は、
使い続けられると、上塗
りの一部がすり減り、下
地の中から黒漆が現れ、
さらに趣のある色合いへ
と変貌します。

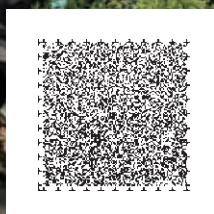


根来塗は、朱漆で塗ら
れた木製の器で、今から

1543年に種子島に
鉄砲が伝來した後、根来
寺の津田監物（杉の坊算
長）が種子島に渡り、鉄
砲と火薬の製法を習い、

根来の地にもたらしまし
た。それを模倣させたのが
本州最初の鉄砲であり、鉄砲を得た僧兵軍が
根来鉄砲隊です。

根来鉄砲隊





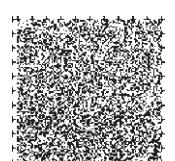
根来の子守唄は、江戸時代の後半頃、郷土の中で親しまれ、根来寺を中心に紀の川筋一帯、南は有田地方まで広い地域で歌い継がれてきました。昭和43年に林眞次氏が発行された「根来の子守唄」の文献では、歌詞解説として16の歌詞が掲載されていますが、現在、歌い継がれているのは、そのうちの代表的な6つとなっています。

この6つの歌詞は、根来寺の門前町として栄えた西坂本の町屋の様子や根来寺が焼き討ちにあつた様子、住持池に伝わる伝説などを現在に伝えていきます。



根来の子守唄

- 一 わんわ根来の ようなる鐘はヨ
一里聞こえて 二里ひびくヨ バイバイ
- 二 わんわ根来の カくばん山でヨ
とうしょう寺來いよの 鳩が鳴くヨ バイバイ
- 三 川がおどろし 紀の川がヨ バイバイ
- 四 さんさ坂本 築はいらんヨ
お不動詣りの 褐ではくヨ バイバイ
- 五 わんわ根来の 塔の堂の前でヨ
横にはうかよ がりゆう松ヨ バイバイ
- 六 さんさ坂本 室家の娘ヨ
縁入りしたとは 住蛇池ヨ バイバイ



根来寺境内

き小野小町にそつくりに美しく成長し、根来小町といわれるようになりました。ある日、住持池付近を散歩していると、急に強風がふとができ、それから桂姫の髪は必ず住持池の水で梳くようになりました。桂姫が年頃になると、髪の色もよく、ますます美しい根来小町となっていました。その頃から夜になると、桂姫の室から男の声が聞こえたが、誰かわかりませんでした。おりよく、桂姫が和泉の国尾崎の大原源藏高広という北面の武士に嫁ぐ約束が整い、いよいよ嫁ぐ日がやつてきました。空は、あくまで青く晴れやかな日です。豪華な婚礼の行列を付近の人々は珍しそうに見送っています。行列の先頭が住持池にさしかかったとき、おりしも、一天にわかれに搔き曇つて、住持池の水に大波がたつて、池の真ん中の水面がむくむくと盛り上がったと思うと、そこに一匹の大蛇と、それはそれは美しい若衆が現れ桂姫を横抱きに、池の中へ吸い込まれるようにしてかき消えてしましました。人々は、今の出来事が信じられず、夢をみてているようでした。空は雲一つなく、晴れやかな空に戻っていました。桂姫の両親は、嘆き悲しみ、池に向かって名前を呼び続けると、やがて鏡のような水面が小波を立て始め、それがだんだんと大きい龍巻となつて、そこに現れたのは、大蛇でした。頭上には、

桂姫をのせ、しばらく姿を見せていましたが、そのまま姿を消して二度と現れることがありませんでした。

さんさ坂本室家の娘 嫁にいたとは住蛇池

と子守唄にまで歌われるようになり以降、住持池は、住蛇池ともよばれるようになりますた。

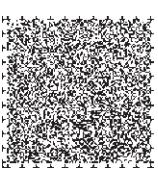
(「広報岩出」昭和58年12月号～昭和59年3月号 岩出町民話 池浦孝著)

鯉の森

鯉の森は船戸から貴志、安楽川、野上方面に通ずる道路の側にある。昔、紀州の殿様は山崎の鯉の淵に年古びた大鯉が棲んでいるのを、人々は誰も恐れて網を下したり釣り糸を垂れたりするものがないということを聞かれ、物に恐れない殿様であるから、諸人の恐れるその鯉を生け捕ろうといつた。村人は鯉の主を生け捕つたならば、異変が起こることを恐れて中止するよう申し立てたが殿様は一旦言い出したことは決して止める性質ではなかつた。準備は進行して網を下す前日になつた。ちょうどこの日は春の休日で村人達は草餅をつき、きれいな着物をまとつて遊び浮かれていた。そのときどこから来たのであろう

(「岩出町誌」第八章伝説 昭和51年)

か、一人の美しい娘が淋しそうに、やつてきて「明日、淵に網を垂れることを何卒暫く猶予して下さるよう尽力願います」と言つた。それは到底聞き入れられそうもないことを告げたところ、その娘は大層しほれたので、可哀そうになり、草餅を食べさせて帰らせた。その娘は淋しそうに鯉ヶ淵の方へ降りていつた。人々はその姿を見送つて哀れに思つた。人々はその姿を見送つて哀れに思つた。生き捕りの当日、殿様始め人々の見守る中に屈強な者どもは遂に大鯉を生け捕つた。さて、いよいよ大刀を揮つて、まずその腹部を切つたところ、不思議にも昨日、あの娘に食べさせた草餅がそのまま腹部から出てきたのであつた。人々は唖然として顔を見合わせて、しばらくは言葉もでなかつたが、さては昨日の娘がこの鯉の主であつたかと。村人は仔細を殿様に申し上げると、殿様もさすがに感動して料理を止めて、そのまま塚を造つて埋め立て祀らせたということである。今は鯉の森は払下となり、木は伐り去られ、土は切り下げられて、畑となつている。鯉の淵は中洲が生じたため、紀の川とは離れたが、今もなお貴志川の淵をなしている。



岩出の伝説

代表的なものを紹介します。

住持池

(小野小町の伝説)

平安時代に、京都に深草少将という立派な武士が住んでいました。少将は、同じ京都に住んでいる小野小町という非常に美しい女性を好きになってしましました。少将は、毎日、小野小町の家に行き「結婚してください」というのでした。

小町は、あまり毎日少将がこられるので、ある日、「もう、こないで、あきらめてください」といいましたが、一向にあきらめようとしません。小野小町は、深草少将に百日間休まず尋ねてくだされば、結婚しますと約束します。深草少将は約束を果たしますが、小野小町は、嫌な結婚だからと、約束を破り、侍女と京都から熊野へ逃げだし、紀の国、小野山（雄の山）峠にさしかかりました。

長い旅の事、すっかり疲れて、もうこれ以上あるいて熊野まで行くことができません。ちょうど峠から東へ行くと、根来の里へ通じる道がありましたので、その方へ向かうこと

になりました。一方、深草少将は、血相を変えて、どんどん小野小町の後を追いかけます。

深草少将に追いつかれそうになり、侍女が小町の身代わりになり、さらに逃げようとした。小町でないと知った深草少将は、「わしは住持池に身を沈めて蛇になり、いつまでも小町を呪い、恨みを果たすぞ。」といつて池に身を躍らせました。深草少将は見る見る恐ろしい大蛇に変わっていました。侍女の身代わりによつて逃げた小町は、安上、原、金池、相谷など身を隠しながら逃げつづけました。が、夜になると必ず深草少将の亡靈に苦しめられるのでした。このような毎夜なので小町も自分の非を反省し、深草少将の靈をまつります。

〔広報岩出〕昭和58年9月～昭和58年11月号

岩出町民話 池浦孝著

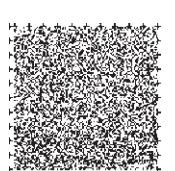
住持池

(室家の桂姫とのまつわり)

小野小町や、深草少将が亡くなつてから約二五〇年過ぎたころ、根来村の西坂本に、室家という、大金持ちがおりました。子宝に恵まれないこの夫婦は、子どもが授かるという話を聞いたので、小野小町の墓にお願いすることになりました。すると、不思議にも子どもができ、桂姫と名付けました。桂姫は、亡

す」というと、帰らぬ人となつてしましました。

村人は、小町にたいへん同情して、寺のそばに少将の供養塔に並べて小町の墓を建てました。いつごろか不明だが、村人たちの間で小町の墓にお願いすれば、子どもを授けてくださるという、言い伝えがあるということです。



歴史探訪



岩出には、歴史的な文化財がたくさん残っています。

自分たちが暮らす街の歴史を知ることで、新たな魅力を発見できるかもしれません。

根来寺

新義真言宗の総本山。高野山の学僧であった覚鑓(かくばん)上人によって開創され、開創以来、約900年の伝統を誇り、山内には日本最大の木造の多宝塔「大塔」のほか、大伝法堂には重要文化財の本尊大日如来・金剛薩埵・尊勝仏頂の3体が奉安されています。1585年、秀吉の紀州攻めにあい、多くの僧坊が焼失しましたが、幸いにも、本尊、大塔を含む境内の中心は焼失をまぬがれました。根来寺境内は中世のたたずまいを残し、四季折々、桜、新緑、紅葉が変化に富み、多くの参拝者の目を楽しませます。

【国指定文化財】

根来寺多宝塔(大塔)

建造物・根来・M32.4.5 指定
S27.11.22 国宝

日本最大の木造多宝塔で、天文16年に完成しています。



根来寺境内

史跡・根来・H19.2.6 指定
H22.2.22 追加

新義真言宗総本山根来寺の境内地で、大塔や大師堂が所在する中枢部のほか、塔頭寺院の遺構が残る谷部など周辺が史跡に指定されています。



根来寺大師堂

建造物・根来・S16.5.8 指定
大塔の西南に建つ根来山内に残る最も古い建築物です。

根来寺庭園

名勝・根来・S33.5.15 指定
H19.2.6 追加・一部解除

この庭園は、北西方に社尾山の樹林を負い、奇岩怪石を縦横に配置した池泉式蓬莱庭園が造られています。また、南方には泉水で繋がった庭園と聖天池、蓮池があり、一帯が名勝となっています。



増田家住宅

建造物・曾屋・S 44.3.12 指定
増田家はもともと駿河今川氏の家臣であったと言われ、江戸時代には周辺20村の大庄屋を務めました。建物は、県内に残る大規模な住宅としては最古です。(非公開)



木造大日如来坐像(中央)

木造金剛薩埵坐像(右)

木造尊勝仏頂坐像(左)

彫刻・根来・H6.6.28 指定

大伝法堂に安置される三尊像で、金剛界大日如來の左右に金剛薩埵、尊勝仏頂を配する構成になります。こうした尊像構成は根来寺開祖覚鑓の創案になるとみられています。

(所蔵：根来寺、写真資料提供：和歌山県立博物館)

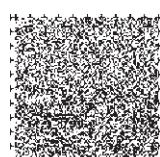


絹本着色鳥羽天皇像

絵画・根来・H27.9.4 指定

鳥羽天皇の肖像画が制作されたものと考えられています。平安後期の鳥羽天皇をほぼ等身大に描いた作品です。

(所蔵：根来寺、写真資料提供：和歌山県立博物館)





木造弘法大師坐像

彫刻・北大池・H8.6.27 指定

左手に数珠、右手に五鉢杵をもって坐す真如親王御影系の大師通形像です。

作者良円は京都の三条仏師で、この像は鎌倉時代後期の三条円派仏師の数少ない作品です。

(所蔵：遍照寺、写真資料提供：和歌山県立博物館)



【県指定文化財】

区分	名 称	所在地	指定年月日
建造物	正覚寺の多宝小塔	高塚	S 40. 4.14
建造物	根来寺光明真言殿	根来	
建造物	大伝法堂	根来	H 5. 4.13
建造物	大門		
建造物	根来寺不動堂(八角円堂)	根来	S 42. 4.14
建造物	上岩出神社本殿	北大池	S 44. 7.14
建造物	荒田神社本殿	森	H 7. 4.11
建造物	旧和歌山県会議事堂	根来	H17. 5.31
彫 刻	根来寺能面	根来	H16. 3.16
彫 刻	木造弘法大師坐像	根来	H18. 5. 9
歴史資料	紙本淡彩根来寺伽藍古絵図	根来	H18. 5. 9
史 跡	船戸山古墳群	船戸	S 42. 4.14
天然記念物	正覚寺ムクの木	高塚	S 41.12. 9
天然記念物	栄福寺イブキビャクシンの大樹名木	湯窪	S 41.12. 9
天然記念物	下中島の大イチョウ	中島	S 41.12. 9
天然記念物	百山稀少鉱物産出鉱脈	山崎	H17. 5.31

【市指定文化財】

区分	名 称	所在地	指定年月日
建造物	地土の門長屋	根来	S 42. 1.20
建造物	桃井家大庄屋敷	曾屋	S 42. 1.20
建造物	根来寺行者堂	根来	S 55.11.22
建造物	根来寺聖天堂	根来	S 55.11.22
建造物	上岩出神社板碑	北大池	H 2. 2.13
天然記念物	しだれ桜	根来	S 62. 9.14

西国分塔跡

史跡・西国分・S3.2.7 指定

S60.4.13 追加・一部解除

紀の川市東国分にある紀伊国分寺跡の西方800mに位置します。

市内のあちこちで身近に歴史を感じられます。



福田家住宅(国登録有形文化財)



旧和歌山県会議事堂(通称：一乗閣)



栄福寺
イブキビャクシンの
大樹名木



下中島の大イチョウ



荊本の道標



南大池の道標



宮の道標

